

2024 年 9 月社長会見



2024 年 9 月 18 日

1. 営業・輸送概況
2. 保守メンテナンス手法の変革の取り組みについて
～線路設備診断システムの運用開始（在来線）～
3. 山陽新幹線 自動運転導入に向けた取り組みについて
4. デジタルツーリズムの始動について

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

まず営業・輸送概況です。

収入ですが、8月は前年比で103.0%、9月は14日までで106.7%です。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同环比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
8月	103.0%	104.3%	103.3%	99.1%
9月 (9/1～14)	106.7%	99.3%	109.9%	104.8%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況ですが、山陽新幹線は、8月が前年比で96%、9月が14日までで103%、近畿圏につきましては、8月が101%、9月が14日までで102%です。

8月から9月にかけては、南海トラフ地震臨時情報により、一部特急列車の運転を取りやめるほか、台風10号の影響も長期間にわたりましたが、9月の山陽新幹線・在来線の特急につきましては、前年と同水準で推移している状況です。

10月からは北陸デスティネーションキャンペーンが始まります。JR6社の共同キャンペーンです。観光列車「はなあかり」がデビューするほか、北陸新幹線が乗り放題になるおトクなきっぷを発売するなど、様々な企画をご用意しております。

北陸新幹線敦賀延伸によりまして、これまで以上に北陸三県の繋がりが強まり、旅の楽しみ方も広がっていくのではないかと考えております。多くの方に訪れていただければと思う次第です。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同环比				
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏	
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員
8月	96%	126%	93%	105%	101%
9月 (9/1～14)	103%	130%	99%	100%	102%

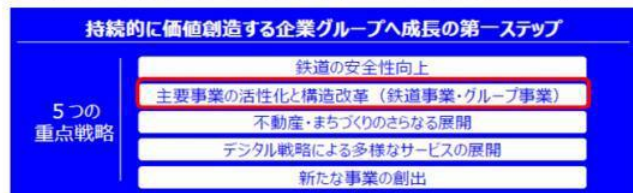
※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同环比を併記

2. 保守メンテナンス手法の変革の取り組みについて ～線路設備診断システムの運用開始（在来線）～

次に、当社の保守メンテナンス手法の変革の取り組みについて、ご紹介させていただきます。

保守メンテナンス手法の変革の取り組みについて

■中期経営計画2025に基づく重点戦略の取り組み



様々な社会課題に対し、持続可能な社会の実現のため、「鉄道事業の活性化と構造改革」の一環として保守メンテナンス手法の変革に挑戦

線路設備診断システムの運用開始
(2024年8月～)



人口減少や少子高齢化、人材確保の困難など、様々な社会課題があるなか、「中期経営計画2025」で掲げております「主要事業の活性化と構造改革」の一つとして、保守メンテナンス手法の変革を進めているところでありまして、8月より、在来線におきまして、線路設備診断システムの運用を開始いたしました。

保守メンテナンス手法の変革の取り組みについて

■線路設備診断システムの概要



列車に装置を搭載し、線路設備（レール・まくらぎ等）の画像等を取得し不具合の検知を自動で実施

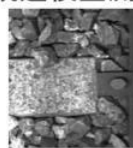
○ 線路設備診断システム 測定概要



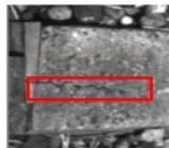
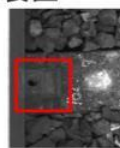
搭載車両 : 総合検測車(DEC741)
測定エリア : JR西日本管内 電化区間
測定頻度 : 3回/年
測定速度 : 最高速度100km/h

○ 線路設備診断システム 不具合検知例

軌道検査測定装置



レール締結装置脱落

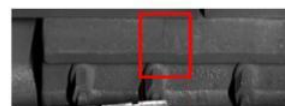


まくらぎの亀裂

継目板検査装置



継目ボルト脱落



継目板亀裂

この線路設備診断システムは、車両に搭載したカメラとレーザーによりまして、線路状態を確認して、保守メンテナンスを支援する装置です。

この装置を搭載する総合検測車、検査用の車両である「DEC741」には、架線や信号機といった、電気設備を診断するシステムが既に搭載をされて、運用されておりますが、これに線路設備についても検査が可能となる設備を新たに搭載したということです。

今回搭載した線路設備診断システムの「軌道検査測定装置」では、レールを固定する部品の脱落やまぐらぎの亀裂などをカメラで観測していくことになります。また、「継目板検査装置」というものも新しく付加しており、レールとレールを接合している継目板自身の亀裂やボルトの脱落を自動で検出いたします。これまで、地上係員が徒歩巡回で、線路上を歩いて、一つひとつ目視確認していくことを定期的に行ってまいりましたが、それらにつきまして、車両を用いて、カメラとAIの判定を組み合わせ、人の検査を補完し、効率化していくものです。

8月1日から、当社管内の在来線の電化区間におきまして運用を開始しており、総合検測車の走行に合わせて、年3回の頻度で該当線区につきまして測定をしてまいります。

保守メンテナンス手法の変革の取り組みについて

■線路設備診断システムの特長

- 線路設備の不具合を網羅的かつ均一の品質で検知可能
- 画像等の取得と線路設備の不具合検出処理を同時に実施することで、
将来的に不具合となり得る事象を短期間で現場区所に配信

より適切な保守の実現

■保線業務の保守メンテナンス手法の見直し(在来線)

- 線路巡視頻度の見直し
列車が安全に運転することができる状態を保持するために、線路の巡視を実施
⇒ 線路設備診断システムの導入で、線路構造が均一なロングレール構造区間を対象に
線路の巡視(徒歩)の回数を半減
- 今後の展望
技術開発の継続により、画像精度や診断精度の向上を図り、更なる安全性・生産性向上を目指す

これによりまして、測定を行う全てのエリアにおいて、線路設備の不具合を、網羅的に、かつ均一の品質で検知していくということになってまいります。

そして、走行時にリアルタイムに線路設備の状態を確認することで、将来的に不具合となり得る事象が発見された際には、短期間で関係現場に検査結果が配信されることになり、早期の適切な保守に繋げることが可能となります。

次に、線路設備診断システムの導入に伴います、線路の保守メンテナンス手法そのものの見直しについて、ご紹介いたします。

線路状態の確認の一つとして、定期的に徒歩による巡視を行っておりますが、線路設備診断システムの導入によりまして、線路構造が均一なロングレール構造区間を対象に、この検測システムによる検測をするこ

とによりまして、徒歩巡視そのものの頻度を見直し、これまでやっておりました徒歩巡視の頻度をインターバルで倍にするということで、これまで2週間に1回やっていたものを、徒歩巡回によるものは、4週間に1回、それに加えて検測車によるデータを組み合わせるように見直しをしていくことになります。

これは、保守業務そのものの生産性向上に資するもので、持続可能な鉄道事業の実現に寄与する取り組みであると考えております。

引き続き、技術開発を進めまして、取得する画像の精度だとか、診断精度の向上を図ることで、安全性・生産性の向上に一層、寄与できるように取り組んでまいります。

3. 山陽新幹線 自動運転導入に向けた取り組みについて

次に、山陽新幹線自動運転の導入に向けた取り組みについて、ご紹介させていただきます。

山陽新幹線 自動運転導入に向けた取り組みについて

自動運転技術の導入に向けた連携

山陽新幹線で2030年代の自動運転（GOA2）開始を目指します

- ◆ JR東海より技術協力を得て山陽新幹線での自動運転技術の導入を検討
- ◆ 自動運転の実施に際した安全性の向上や省エネ効果の最大化の検討



東海道新幹線の自動運転走行試験
(提供：JR東海)

自動運転レベルと導入効果

自動化レベル (IEC(JIS)による定義*)	乗務形態のイメージ (〔 〕内は係員の主な作業)
GOA2 半自動運転 STO	 運転士〔列車起動、緊急停止 操作、避難誘導等〕

【参考：国土交通省資料より抜粋】鉄道の乗務形態による自動化のレベル

- ・ 運転士は先頭運転台に乗務
- ・ 運転士の手動操作にて発車
- ・ 運転中の速度制御及び停車は自動

- ◆ 運転操縦の支援により、運転士の業務量を削減し、駅発着時のホーム上の安全確認に注力できるなど、更なる安全性向上を実現することが可能となります
- ◆ 安定して電力消費量の少ない運転が可能となることで省エネ効果も期待できます

当社におきましては、「中期経営計画2025アップデート」において、「鉄道事業の安全性向上・持続的進化」という命題を掲げまして、「ハード・ソフト両面の改良による輸送品質・生産性向上」に向けた取り組みを進めており、その一つとして自動運転技術の導入についても検討しております。

これまで、大阪環状線や北陸新幹線において、自動運転技術導入の検討を進めてきているということで既にご紹介をしておりますが、このたび、山陽新幹線におきまして、2030年代の自動運転開始を目指すことと致しましたので、お知らせいたします。

この導入につきましては、既に技術開発を進めておられますJR東海様に技術協力をいただきまして、まずは自動運転レベル「GOA2」の開始を目指して取り組んでまいります。

この「GOA2」の自動運転では、運転士がボタンを押すことで出発し、その後の走行につきまして、リアルタイムに演算を行うことで、定められたダイヤ通りに、途中駅の通過、並びに到着駅への停止が自動でできるシステムとなっております。

これによりまして、運転士の駅間の運転操作が省かれる訳でして、運転士の業務量を削減し、駅発着時の

ホーム上の安全確認など、運転業務そのものの以外の業務に注力できるなど、安全性向上にも役立つと考えております。

また、自動運転技術の導入によりまして、電力消費量の少ない運転が安定的に可能となり、省エネ効果も期待できると考えております。

少子高齢化ということで、様々な社会環境の変化が見込まれますが、まずは自動運転レベルGOA2での自動運転の実績を積み重ね、より安全で利便性の高い輸送サービス、そして、サステナブルな鉄道経営へ繋げていければと考えております。

4. デジタルツーリズム事業の始動について

次に、デジタルツーリズム事業の開始につきまして、ご案内をさせていただきます。

デジタルツーリズム事業について 中期経営計画2025

中期経営計画2025

デジタル戦略による多様なサービスの展開

データやデジタル技術を駆使し、お客様一人ひとりとグループの多様なサービスをつなぐことで心を動かす。

いつまでも住み続けたい・また来たいと感じる“WESTER体験”を提供

心と未来を動かす“WESTER体験”

「データ」「個客」起点で多様なサービスを生み出し、24時間365日お客様とつながる

私たちの取り組み～3つの進化～

お客様とのつながりの進化

- ・アプリ（WESTER、tabiwa by WESTER、WESPO）の機能向上（デジタルツーリズム、インバウンド対応含む）とエリア拡大
- ・グループECサービスによるデジタル空間でのサービス拡大
- ・モバイルICOCAの機能向上等、お客様ニーズに即した決済ツールの進化と拡大

“たまりやすい、つかいたい”ポイントへの進化

- ・WESTERポイント独自商品の拡充や外部との連携

グループマーケティング力の進化

- ・カスタマージャーニーに基づくグループ“データ”マーケティングにより、お客様一人ひとりに便利でおトクで楽しい体験をタイムリーにご提供

目標
WESTER 会員(ID)数
2025年度
800万人

段違いに“便利” “おトク” “楽しい”



デジタルツーリズム事業

- ・WESTER x tabiwa により、日常・非日常双方のデジタル顧客接点を構築。お客様一人ひとりに合った、日常から旅マエ～旅アトに至る新たな体験価値を提供し、西日本内外の旅や移動需要を活性化

- ・アライアンスを締結し、デジタルツーリズム実現に向けたプロジェクト発足

WESTER

「中期経営計画2025」におきまして、デジタル戦略による多様なサービスの展開というテーマを掲げており、お客様とのつながりを進化させるべく、デジタルツーリズム事業に取り組んでおります。

デジタル技術を活用し、お客様ひとりひとりにあったサービスを提供することで、旅マエから旅の途中である旅ナカ、旅が終わった後の旅アトまで、一連の旅が便利でワクワクするものになる顧客体験を実現したいと考えています。

デジタルツーリズム事業について 中期経営計画2025

多くの方が西日本エリアにお越しになる
「大阪・関西万博」に向け...
「移動・旅行」をシームレスでストレスフリーに
...2つの新たなサービスを提供

【国内のお客様向け】

「**tabiwa by WESTER**」を大幅リニューアル

【訪日のお客様向け】

訪日用観光型MaaSを開始

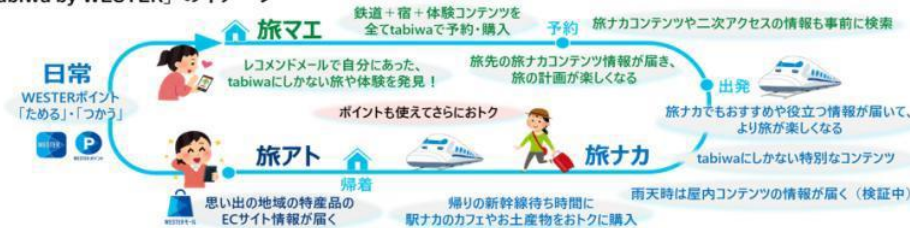
○ 実現したい顧客体験



お客様にとって非日常の「旅行」を、tabiwaを通じてワクワクする体験に

- ・旅マエ～旅ナカ～旅アトまで、旅行プランやコンテンツの検索、予約・購入が全てtabiwaで可能に
- ・旅に役立つ情報や興味のあるコンテンツ情報が、tabiwaを通じてタイムリーに手元のスマホに
- ・特別感があり、ワクワクするコンテンツが充実

「tabiwa by WESTER」のイメージ



このたび、多くの方が西日本エリアにお越しになる、来年の大阪・関西万博に向けまして、その移動・旅行をシームレスでストレスフリーなものにする、2つの新たなサービスを提供いたします。

まず国内のお客様向けには、当社が提供している観光型MaaSアプリ「tabiwa by WESTER」を更に便利にすべく、リニューアルを実施いたします。また、訪日のお客様向けには、新たな観光型MaaSを開始いたします。

tabiwa by WESTERのシステムリニューアル

■ 2024年10月1日 tabiwaリニューアルにより、旅行商品購入機能（tabiwaトラベル）が新たに誕生

おトクなJRセットプランや宿泊プランが購入できる「tabiwaトラベル」を新たにシステム内に実装
⇒着地観光チケットだけでなく、**目的地までの移動や宿泊もシームレスにtabiwaで予約・購入可能に。**



tabiwa by WESTER のアプリにつきましては、10月1日にシステムリニューアルを行いまして、お得な旅行プランが購入できる「tabiwa トラベル」を新たにシステム内に実装するとともに、より操作性を高めまして画面デザインなども改善いたします。

これにより、これまで以上にシームレスにご旅行いただくことを、私どもも期待しております。

鉄道、宿、そして、その土地ならではの特別な観光コンテンツを tabiwa で取り揃えて、お客様ひとりひとりにあった形で提案していければと思います。

今後は、様々なお客様のニーズをAIが分析・予測しまして、よりひとりひとりのお客様にあったご旅行の提案ができるサービスを準備していきたいと思っています。

訪日中国人観光客向け観光型MaaS

■ 2024年10月下旬予定 「西日本旅游攻略（りょうこうりやく） tabiwa」 新たに開始

中国で日常的に利用されるWechatアプリ内に、ミニプログラムとして提供
→ **AIによるお客様の趣味趣向に合った旅程と最適な周遊パスをご提案**

TOP画面



こだわり条件設定



周遊パスの購入動線



※画面はイメージになります。実際は中国語での表示になります

次に、インバウンド向け観光型MaaSについてです。第一弾といたしまして、中国からの訪日観光のお客様を対象とした「西日本旅游攻略 tabiwa」を、ローンチいたします。

AI機能を活用し、お客様の好みを反映した旅行計画やそれに応じた周遊パスの提案に加えまして、お得なクーポンの提供などによりまして、旅マエの高揚感を高めて、旅ナカの移動や観光をサポートいたします。

10月末頃から、トライアルということでスタートいたします。2025年度以降には、多言語対応を進めまして、さらに多くの訪日観光のお客様にご利用いただけるプラットフォームを作っていきたいと考えています。

技術の進化によりまして、世の中が便利になる中、リアルの実験価値はますます高まってきているところです。

当社グループといたしましても、デジタルツーリズム事業の推進によりまして、様々な趣味嗜好やニーズをお持ちのお客様ひとりひとりにあった旅行を提案し、新たな移動体験を提供いたします。

そして、西日本内外の旅や移動需要を生み出しまして、そこでしかできない体験をお楽しみいただき、地域経済の活性化、ならびに、持続可能な社会の実現に貢献できればと考えております。